

奥出雲町出身ホッケー選手 アジア大会で活躍

第十六回広州（中国）アジア競技大会ホッケー競技に、奥出雲町出身の三澤孝康さん（名古屋フラーテル）、山本由佳理さん（ソニーHCブラビアレディーズ）、大塚志穂さん（天理大学）の三名が日本代表選手として出場しました。結果は、女子が三位（参加七ヶ国）、男子が六位（参加十ヶ国）でした。奥出雲町出身者が、多数日本代表として活躍していることは、町民の誇りであるとともに、競技者の一層の励みとなります。



日本代表として活躍 山本選手
写真提供：日本ホッケー協会

平成二十二年 生涯スポーツ優良団体表彰 島根県ホッケー協会が受賞

文部科学省が、地域または職場におけるスポーツの健全な普及及び発展に貢献し、地域におけるスポーツの振興に顕著な成果を挙げたスポーツ団体などに贈る「生涯スポーツ優良団体表彰」を、島根県ホッケー協会（糸原徳康会長）が受賞しました。

同協会は、長年にわたり、競技力の向上、セルリオ島根の社会人リーグ参戦、小・中高一環した指導体制の確立などに努めています。こうした活動が、地域に大きく貢献しているとして、このたびの受賞となりました。

ホッケー国際大会へ町内中学生ら出場

ホッケー国際大会「F H E C U P」のU16ジュニアユース日本代表選手に内田健斗さん（仁多中）、横路涼子さん（仁多中）、福田健太郎さん（横田中）、コーチに島大和さん（仁多中講師）が選ばれ、激励式が十一月十五日、役場仁多庁舎で行われました。井上町長から激励金が贈られた後、選手からは「応援してくださる皆さんへの感謝を忘れず、自分のプレーがどこまで通用するかをしっかりと確かめたい」と決意が述べられました。



3人の選手と島コーチ（最右）



受賞した県ホッケー協会 糸原会長（左）と松浦昇理事長（右）



第60回仁多郡駅伝競走大会

今回で第六十回を迎えた、伝統の仁多郡駅伝競走大会が、役場横田庁舎前を発着点に開催されました。

また、長年にわたり大会に対して資金援助等を頂いている、（株）マサコーポレーション代表取締役 千原正男さん（松江市）へ感謝状が贈られました。

- ・ 一部 三成支部 優勝 三十分十八秒
 - ・ 準優勝 布勢支部 一時間五十一分三十五秒
 - ・ 三位 阿井支部 一時間五十五分二十三秒
- 【区間賞】
- ・ 一区 朝倉 祐樹（鳥上）
 - ・ 二区 田中 正彦（布勢）
 - ・ 三区 恩田 洋平（布勢）
 - ・ 四区 加藤 周三（三成）
 - ・ 五区 川西 正一（三成）
 - ・ 六区 若槻 陽（横田）
 - ・ 七区 安部 直人（阿井）
- ・ 二部 優勝 チームチャイリー（米子） 一時間四十七分十二秒

大会には、一部（支部対抗）に九チーム、二部（クラブ対抗）に三チームが参加し、秋晴れの奥出雲路三十二・八キロで健脚を競いました。選手たちは、アップダウンのあるコースを懸命に走り抜き、たすきをつないでゴールを目指しました。総合優勝には、二部に出場のチームチャイリー（米子）が輝きました。

出雲神話を語る「奥出雲ガイド」を養成

古事記編纂千三百年 8回の講座がスタート



藤岡理事長（右）の講義を聴く参加者

二〇二二年の「古事記編纂千三百年」を迎えるにあたって、神話や歴史を語るガイドを養成しようと、奥出雲観光協会が主催し、「奥出雲ガイド養成講座」が始まりました。

この講座は、全八回シリーズで行われ、第一回講座が十一月七日、カルチャープラザ仁多で行われ約五十人が参加しました。

講座では、NPO法人出雲学研究所の藤岡大拙理事長の「出雲神話と奥出雲」と題した基調講演を聴き、国引き神話の舞台「長浜神社」（出雲市）などを訪ねました。基調講演で、藤岡理事長は「古事記に記載されている出

雲神話の量はとても多い。また荒神谷遺跡や加茂岩倉遺跡など出雲地方で多数の遺跡が発見されていることから、出雲地方は、実態のある繁栄した存在であったといえる」とし、神話の中の真実を探ることが、これからの古代史研究であると話されました。また、古事記の「国引き」の節を、解説を交えながら参加者と一緒に読み上げ、ガイド養成の第一歩を踏み出しました。

全講座の終了後には、受講者に「奥出雲ガイド認定証」が交付される予定で、出雲神話の普及や、観光振興の一助となることが期待されています。

「ごっこん島根文化振興財団が図書カードを寄贈

島根県内の教育活動の充実、優れた文化芸術の創造、スポーツの振興を奨励し、地域社会の発展に貢献することを目的とした支援・協賛活動を行なう（財）ごっこん島根文化振興財団が、教育助成活動として奥出雲町に図書カード（十万円分）を寄贈しました。

この贈呈式が十一月十六日、山陰合同銀行の藤本隆敏三成支店長、越野真司横田支店長、町関係者が出席し、役場横田庁舎で行われました。

全国の農業担い手が奥出雲で視察・交流

全国の農業担い手が相互研鑽と交流を深めながら、農業の地域活性化への貢献について考えることを目的とした「第十三回全国農業担い手サミット・イン・しまね」が島根県を会場に開催され、その地域交流会が十一月九日から十二日の四日間、県内十三会場で行われました。

十日から二日間行われた奥出雲地域交流会には、全国から約七十人が参加し、町内の農業法人経営を行っている四団体から現地で説明を聴きま

ために使われる予定です。



寄贈書を渡す藤本支店長（右）

参加者は「ハウスの空調のランニングコストはいくらか」、「他の産品への事業転換を考えたことはあるか」など具体的な細かい質問をして、回答や説明内容を細かくメモし熱心に聴いていました。

農業のあり方や重要性が改めて見直される中、このサミット・地域交流会を通じて、担い手同士の交流や相互研鑽が、これからの農業発展の重要なポイントであることを参加者は再確認していました。



開発農地（横田一団地）での交流会の様子